

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K09254

研究課題名（和文）多様な雇用形態の看護師の活用に関する分析 - 専門化とモジュール化を焦点に

研究課題名（英文）The analysis of diversification and utilization possibility of Registered Nurses ; Be focused on professionalization and modularization

研究代表者

早川 佐知子 (HAYAKAWA, Sachiko)

明治大学・経営学部・専任講師

研究者番号：90530072

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アメリカにおける多様な看護職種の分業・協業について明らかにしたものである。この中で、上級看護師が各看護分野で医師の職務を補助・代替することで、プライマリケア医の不足を補い、かつ看護師にキャリアアップの道を提供してきたこと、Travelerという働き方による熟練形成の方法を示した。そして、上級看護師とともにプライマリケア医不足を補う役割を果たしてきたPhysician Assistantにも焦点を当てた。上級看護師が看護学に基づく医療行為を行うのに対し、Physician Assistantは医学教育に基づく。これらは、より広い層に門戸が開かれているという点で、大きな可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上級看護師やPhysician Assistantなど、中間職種（Mid-Level Provider）が加わることで、アメリカの医療現場に起きた変化や生じた課題を、50年の歴史に沿って分析することができた。日本でも現在、医師不足が深刻化している。よって、新しい職種を投入することで、より厚みのある医療提供体制を構築できる可能性を示した。COVID-19の際も、緊急の医療体制においてこれらの職種が各所で医師をリリーフし、その柔軟性が非常に高く評価された。今後、新たなパンデミックや災害などが起こる可能性を見据え、日本も職種の分業体制を見直すべきだと主張する。

研究成果の概要（英文）：I clarified this study about division of labor, the co-operation of a variety of nursing types of job in the United States. Advanced Practice Registered Nurses supplemented the lack of the primary care physician by assisting the duties of the doctor, and substituting. I showed that I provided a way of the career up to a nurse.

And I focused on Physician Assistants which played a role to make up for lack of primary care physician with Advanced Practice Registered Nurses. Physician Assistants are a qualification based on the medical education that is general more whereas a Advanced Practice Registered Nurses premise nursing license and performs a medical act based on the nursing science. As for these, the larger layer has big possibilities at a point that the door is opened.

研究分野：人事労務管理

キーワード：上級看護師 Nurse Practitioner Physician Assistant Mid-Level Provider Traveler 派遣看護師

### 1. 研究開始当初の背景

近い将来、少子高齢化に伴う労働力不足が予想されることから、政府や経営者団体を中心に「多様な働き方を可能にする社会」というスローガンが掲げられて久しい。1990年代には派遣労働が自由化され、近年では正社員の中にさまざまなカテゴリーを設ける企業も増えている。

非正規雇用や多様な社員の類型に関する研究は、経営学、社会学、経済学などの分野で、数多く積み重ねられている。そのような努力にも関わらず、多くの非正規雇用の労働者は、未だに処遇や職務において、正規雇用労働者とは大きな隔たりがある状態にある。このような格差の背景のひとつには、日本の組織がメンバーシップ型(濱口(2011))であることが挙げられよう。

また、医療労働ということに目を転じると、医師不足・看護師不足が深刻な状況にある。医師に関しては、養成に長い時間がかかるという点、そして、養成機関の定員を増やすことへの障壁から、他職種へのタスクシフティングが有効な解決策であると考えられる。看護師については、供給は十分なが、維持ができていない状態にある。その原因の一つには、看護師のキャリアアップの方向が管理職にしかなく、専門の看護分野のエキスパートとして活躍することが評価されないことにあると考えている。キャリアの天井が低い現状は、生涯を通じて看護師という仕事を極めたいと願うモチベーションに十分応えられていないと言えるであろう。

### 2. 研究の目的

本研究は、専門職である看護師の雇用形態による格差を問題視し、それが看護師不足の原因のひとつであるという仮説をとる。すなわち、「各医療施設が看護師を囲い込むことに尽力する」という方向性から、「国家資格を有する専門職人材は、国全体の財産であると捉え、より大きな視点で看護師の長期的なキャリア形成を可能にする方法の検討」という視点への、パラダイムシフトを提案したい。そのために、組織横断的な働き方が可能となるシステムの構築の必要性を訴える。ポイントになるのは、看護師のアイデンティティを、「雇用されている施設」ではなく「専門性」へシフトさせること、そして、職務をモジュール化すること、以上の2点である。そのため、これらが実現しているアメリカの正看護師の事例を採りあげ、分析を行う。

### 3. 研究の方法

多様な雇用形態の看護師の活用への過程と、それが与える影響を分析するために、本研究はアメリカの専門性の高い派遣看護師である Traveler に焦点を当てた。アメリカの看護師は、そのアイデンティティを雇用先よりも、自らの専門性に置く傾向がある。特に Traveler は、多くが ICU 等の専門性の高い分野で活躍している。

調査方法は、以下のプロセスに沿って行った。第一段階では、文献資料を中心に、看護師の専門化の現状と過程を、より正確に把握した。第二段階では、Traveler の活躍を可能にした医療のシステムを、モジュール化という観点から明らかにした。第三段階では、これらが引き起こす問題点を整理しながら、日本の医療における実現可能性を検討した。

#### (1) 第一段階

Traveler に関しては、アメリカの人材派遣業の通史をもとに、看護師の人材派遣業の特殊性と、それらが成長した背景を分析した。これにより、たとえ非正規雇用であっても生計を維持することができ、かつ、自らのキャリア形成においてもプラスにしてゆけるような働き方の可能性を検討した。現在、日本の派遣労働者の平均時給はわずか1,363円であり、正規雇用労働者との格差が著しい。同一価値労働同一賃金原則に基づき、雇用形態による格差を縮める方向へ動きつつある今、派遣労働の意義も見直すべき時に来ていると考える。

これは看護職に限った問題ではない。職務の内容ではなく、雇用形態で大きな処遇の格差が生まれる日本のような制度の中にあっては、生計のために正規雇用を選択し、結果として長時間労働や遠方への転勤を甘受せざるを得ない労働者も多いであろう。だが、本来であれば、本人が「どのような雇用形態で働くことができるか」ということよりも、「どのような職務を行うのか」ということが優先されるべきである。自らが望む職務を積極的に自己決定できる社会を創るためには、雇用形態がハンディにならないようなシステムが必要になるであろう。Traveler の事例は、このような普遍的示唆に富む事例だとわかった。

#### (2) 第二段階

第二段階は、日本における医師の過重労働の最も大きな要因は、**医療専門職種間の分業と協業**の問題にあるという仮説に基づいて行った。すなわち、医師が「医師にしかできない職務」に専念できる分業・協業体制を構築することが重要であると考えたのである。そのためには、他の専門職種へのタスクシフトが必要となるが、現在の資格制度では医師と医師以外の職務の隔りがありあまりにも大きく、効果は限定的であろう。そのため、より高度な新しい専門職種、つまり Mid-Level Provider を導入することにより、この問題の解決をはかったアメリカの事例を分析した。

アメリカでは1960年代に、「公的医療保険の創設による医療需要の増加」、および「医師の専門化」を背景とした、プライマリケア医の不足という課題を解決するために Nurse Practitioner と Physician Assistant という新しい職種の養成が始まった。50年余りの変遷を経て、現在では多くの有資格者が現場で診断、検査の指示、手術の助手、術前・術後の管理などに携わっている。資格取得には大学院での養成課程修了が必須とされ、研修医に匹敵する高度な職務を担う。

このような中間職種 (Mid-Level Provider) が加わることで、アメリカの医療現場に起こった変化、生じた課題を、50年の歴史を分析しながら明らかにした。このことにより、今後日本でこのような職種を導入する際に、どのようにすればスムーズに浸透するのか、いくつかのポイントを提示することができた。アメリカでは、COVID-19 の際にも、緊急に構築された医療体制において、これらの職種が各所で医師をリリーフできる柔軟性が非常に高く評価された。

伝統的に日本の職場組織は職域を細分化することを好まず、大枠の中で管理することに合理性を見出してきた。医療についても例外ではなく、諸外国と比較すると、日本の医療資格制度は古くからある職種による大枠での分業体制が敷かれている。しかし、分業・協業体制は永遠不変のものではなく、時代にふさわしい形で修正され続けるべきである。補助職種やコーディネイト職種を増やすなど、よりきめ細かい分業・協業構造を作ることにより、不足する医療専門職種が過重労働に陥ることも防ぐことができ、環境変化に柔軟に対応することができる。また、補助職種の創設と、上級職種への適切なキャリアラダーの構築は、より多様な人材が医療職にエントリーすることを可能にする。医師不足・看護師不足を緩和させる効果が期待できる。

#### 4. 研究成果

##### 学術論文

- 「アメリカの看護師と専門職化 - その歴史的展開と現在」『広島国際大学医療経営学論叢』第8号, pp.53-91, 2016
- 『JILPT 資料シリーズ No.206 職業訓練の効果測定精度に関する調査研究 - アメリカ』(共著者: 山崎憲), (独)労働政策研究・研修機構, 担当箇所「第3章 調査事例」pp.18-63.
- 「The Shifting Division of Labor Systems and Significance of Nurse Practitioners—Focused on the Changes of Medicine—」『広島国際大学 医療経営論叢』第11号, pp.19-51, 2018
- 「Physician Assistants and Social Policies in the 1960s」『医学史研究』第100号, pp.49-60, 2019
- 「新しい医療専門職の導入による分業体制の変化に関する考察: 1970年代の Physician Assistant の事例から」『経営論集』第66巻1号, pp.221-240, 2019
- 「アメリカにおける派遣労働と専門職」『社会政策』第11巻2号, pp.97-108, 2019
- 「新型コロナウイルスとアメリカの看護労働—Physician Assistant と上級看護師への緊急タスクシフトを中心に」『いのちとくらし研究所報』第71/72合併号, pp.13-21, 2020

##### 学会報告・講演等

- 「米国における PA 導入の歴史と現状」2018年11月, 医療の質・安全学会学術集会 2018 (名古屋国際会議場)
- 「海外の動向 (PA と NP の歴史から)」2019年3月, 日本医学会連合 市民公開フォーラム (時事通信ホール)
- 「アメリカにおける派遣労働と専門職—Traveler の場合を中心に—」2019年, 社会政策学会 第138回全国大会 (高知県立大学)
- 「米国のタスクシフト—フィジシャン・アシスタント (PA) をを中心に—」2020年5月, 医療制度研究会 (zoom)
- 「パンデミックはアメリカの医療労働者に何をもたらしたのか」2020年8月, 日本医療福祉政策学会 第4回 研究例会 (zoom)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 早川佐知子	4. 巻 第11巻2号
2. 論文標題 「アメリカにおける派遣労働と専門職：Travelerの場合を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会政策』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川佐知子	4. 巻 第100号
2. 論文標題 「Physician Assistants and Social Policies in the 1960s」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『医学史研究』	6. 最初と最後の頁 pp.49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川佐知子	4. 巻 第66巻1号
2. 論文標題 「新しい医療専門職の導入による分業体制の変化に関する考察 - 1970年代のPhysician Assistantの事例から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『経営論集』	6. 最初と最後の頁 pp,221-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 早川佐知子	4. 巻 第11巻
2. 論文標題 The Shifting Division of Labor Systems and Significance of Nurse Practitioners - Focused on the Changes of Medicine -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島国際大学 医療経営学論叢	6. 最初と最後の頁 19-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 早川佐知子
2. 発表標題 パンデミックはアメリカの労働者に何をもたらしたのか
3. 学会等名 日本医療福祉政策学会 第4回研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 早川佐知子
2. 発表標題 「新しい医療専門職の導入による分業体制の変化に関する考察」
3. 学会等名 日本経営学会（関東部会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 早川佐知子
2. 発表標題 アメリカにおける派遣労働と専門職
3. 学会等名 社会政策学会第138回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------